



ことしば

6月号



【チャレンジ目標】『ここにこあいさつ ふわふわ言葉 しっかり運動 いっぱい読書』



学校再開 ～子ども達の明るい笑顔と元気な声に戻ってきました～

5月25日（月）、長かった臨時休校措置が解け、学校に子ども達の明るい笑顔と元気な声に戻ってきました。臨時休校期間中は、保護者の皆様には大変なご苦勞をおかけしたと思います。学校で子ども達が自分なりに感染防止対策を心がけて学習している様子に、ご家庭で様々なお取組やお声かけをしていただいたことがうかがえます。心より感謝申し上げます。

緊急事態宣言もすべての都道府県で解除され、徐々に日常が戻りつつあります。というより、新しい日常生活が始まったという表現の方がよいのでしょうか。新型コロナウイルスに対するワクチンの開発は今なお続いており、決して感染防止対策を怠ってはいけない状況には変わりありません。今後も「新しい生活様式」に基づき「with コロナ」で新型コロナウイルスとうまく付き合いながら、新しい日常生活を創造していくことが求められます。

学校では、文部科学省や県・市教育委員会からの通知をもとに、子ども達の感染予防対策をしっかりと講じながら、楽しく充実した学校生活を送ることができるよう教育活動を実施します。「新しい生活様式」の基本は、できるだけ人との接触を避けることですが、本来学校では、「ひと・もの・こと」としっかりと関わる体験活動が大切です。特に年齢が低ければ低いほど、人とのふれあいは重要です。「3つの密を回避すること」と『ひと・もの・こと』との関わりを大切にすること』は対局にあります。この相対する2つをどのように調整して教育活動を行うか悩ましいところですが、新しい学校の生活様式を創造しながら、この難局を乗り切りたいと思います。保護者、地域の皆様方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



校長のつぶやき

毎日を楽しむ過ごすために ～ちょっとした習慣を身につける～

新型コロナウイルス対策として、長期間の自粛生活を余儀なくされ、大人も子どももずいぶんストレスがたまっただのではないのでしょうか。ストレス解消法は様々ですが、それがよい方向に向くかどうかは自分次第だと言います。気になるのが、相手を攻撃することでストレスを解消することです。IT化にともない、ある言動が、SNS上で炎上し、その人を傷つけてしまうことが問題となっています。顔が見えない人から、言動の一部のみが切り取られて攻撃され、それが拡散することで、全く事実と異なる情報が正当化され、さらに多くの人から攻撃を受け、最悪の場合、命に関わる事態に陥ることもあります。何気ない言動が大変な事態を引き起こすということを、私たちは心しておきたいものです。

一方、自分の心がけ次第で、そのストレスが軽減され、毎日が楽しく過ごせるようになることもあるそうです。その方法を2つ紹介します。（参照：『PHP・2019.8月号』）試してみたいかがでしょう。

① ことだまを味方につける（「言葉が変われば行動が変わる、行動が変われば縁が変わる」）

日本では、言葉に霊力が宿っていると信じられ、口に出して発した言葉通りの結果をもたらす力があるとされてきました。実際に花や野菜を育てるときに、毎日優しい言葉がけをしながら水をやると、より美しい花やおいしい野菜が育つと言われています。ネガティブな言葉をポジティブな言葉に言い換える習慣をつけることで、毎日が楽しくなるのではないのでしょうか。

② “くれくれ人間” から “するする人間” へ

「〇〇が□□をしてくれない」「△△が私のことを分かってくれない」といつの間にか“くれくれ人間”になっていませんか。もとより私たちは周りを変える力はありません。軸足を相手ではなく、自分に置いてみましょう。相手に「くれ」というより自分で「する」ほうがずっと楽になるそうです。